

輸入総発売元



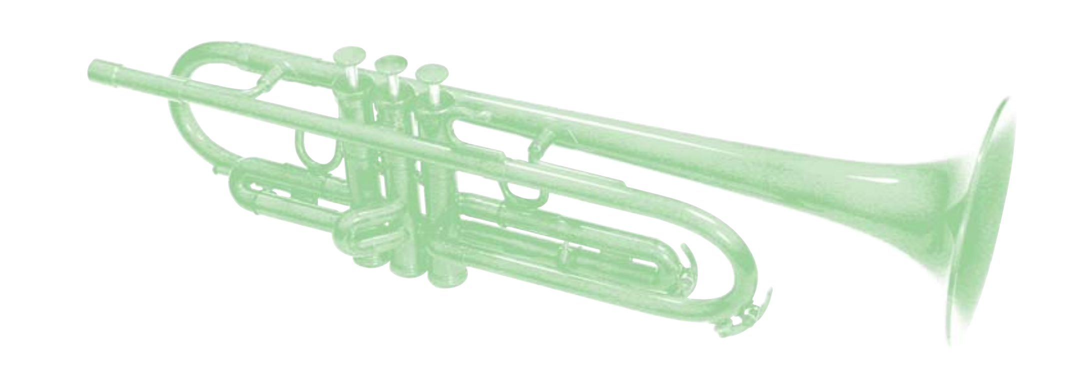
マックコーポレーション株式会社

〒452-0821 名古屋市西区上小田井1-7
TEL.052-505-4680 FAX.052-505-4681

www.maccorp.co.jp



トランペット
コルネット
ポケット トランペット



取扱説明書

この度は、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品をご使用になる前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性質等を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

 安全上のご注意

●オイルや小さな部品類をお子様が口にしない様、ご注意ください。

●ぶつけたり、落下や転倒によって変形する恐れがあります。外観を損なうだけでなく、抜差管やマウスピースが抜けなくなることにつながります。取扱いには十分ご注意ください。

●楽器を火気に近づけないでください。
火災やけがの原因となることがあります。

●楽器を投げたり振り回したりしないでください。部品が抜け飛んだり、楽器の一部が当たると危険です。

●調整、修理が出来なくなる恐れがありますので改造はおやめください。
補償の対象外となります。

●万が一オイルが目や口に入った場合、流水で良く洗い、異常があるようなら医師にご相談ください。

ご用意いただくもの

必要なもの

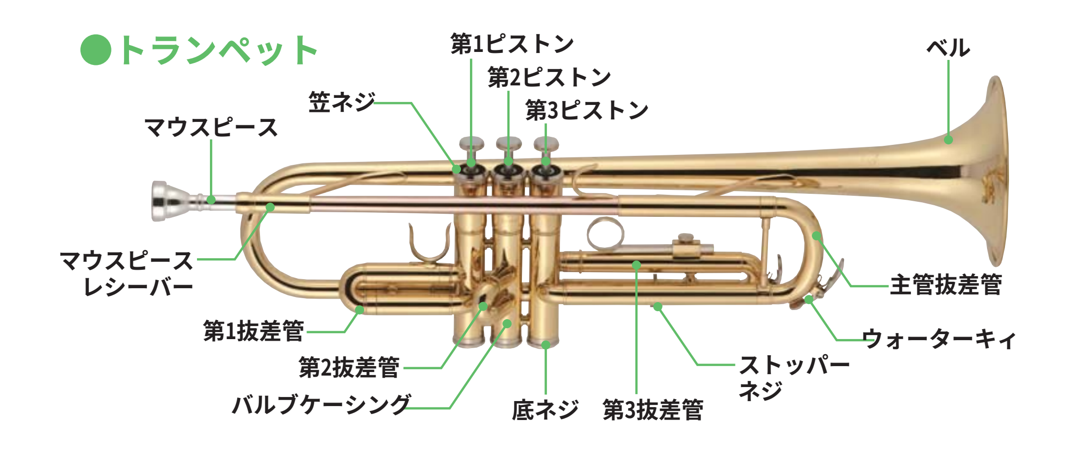
●バルブオイル	ピストンに注油し、動作をスムーズにします。又、ピストン・ケーシングを保護する効果もあります。
●スライドグリス	抜差管に塗り、動作をスムーズにします。又、汚れ・錆による固着を防ぎます。
●ガーゼ	ピストン・抜差管の汚れを取り除く際に使用します。
●クリーニングロッド(掃除棒)	ガーゼを巻いて使用します。
●クリーニングクロス	楽器表面の汚れを拭きます。

あったら便利なメンテナンス用品

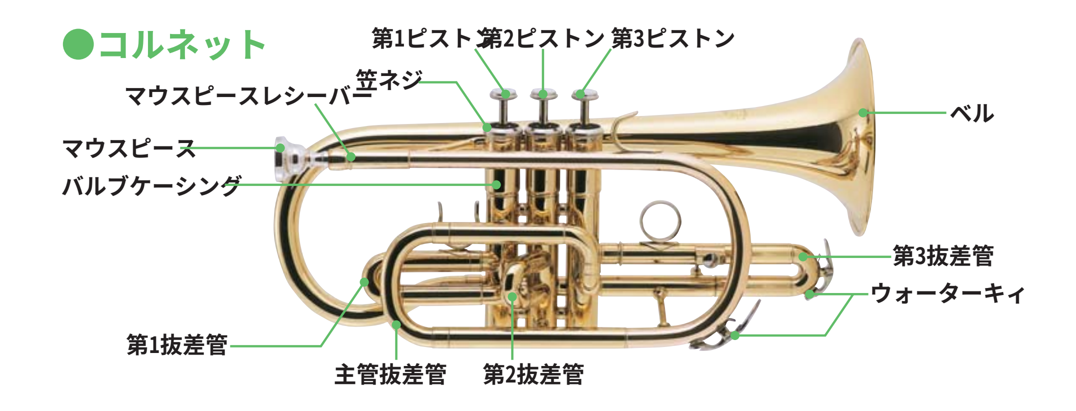
●ラッカーポリッシュ	ラッカー仕上げの楽器の表面を研磨し、汚れを取り除きます。
●シルバーポリッシュ	銀メッキ仕上げの楽器の銀の変色を磨き取ります。
●フレキシブルクリーナー	管内の掃除に使用します。
●マウスピースブラシ	マウスピースの内側を掃除します。
●中性洗剤	管内の洗浄に、水で薄めて使用します。

各部の名称

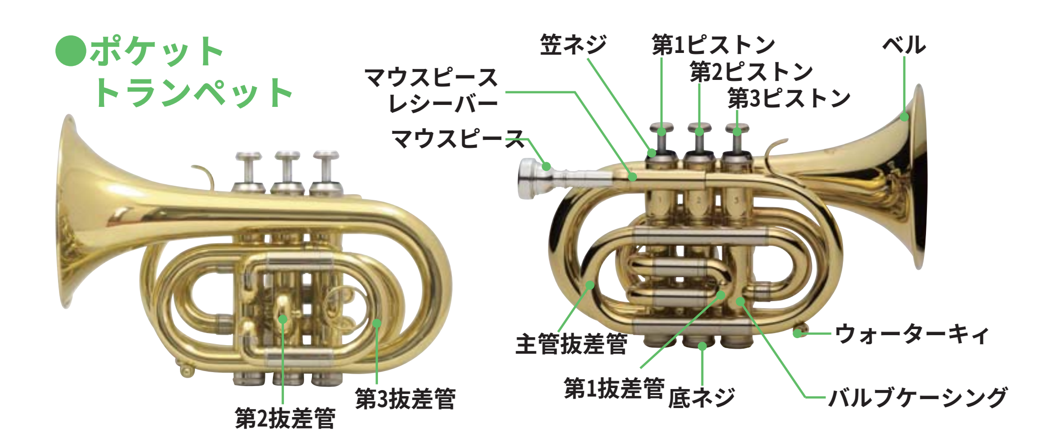
●トランペット



●コルネット



●ポケット トランペット



演奏前の準備



注意！

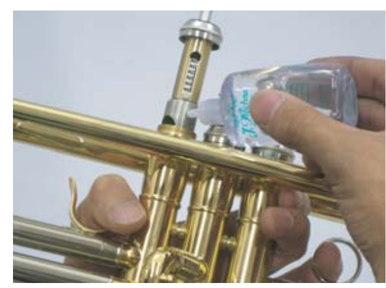
ピストンはトランペットの心臓部ともいえる重要な部品です。
ピストンを落としたりぶつけたり、乱暴に扱わないように十分にご注意ください。
また、バルブオイルの注油を怠ると、ピストンの動きが悪くなります。ご注意ください。

1 バルブオイルの注油

1 笠ネジを緩め、ピストンをまっすぐ途中まで抜きます。

2 ピストンにバルブオイルを２～３滴注油します。





※ゴミが入らないようにご注意ください。

3 ピストンをまっすぐ、ゆっくりとバルブケーシングに収めます。
このとき、ピストンに刻印されている番号がマウスピース側に来るように向きを合わせます。
ピストンを左右に回し、バルブガイドをケーシング内の溝にはめます。
笠ネジをしっかりと締めた後、２～３回ピストンを上下させ、バルブオイルをなじませます。





4 マウスピースレシーバーから息を吹き込み、息が通るか確認します。
息が通らない場合は、ピストンの向き、ピストンの番号とバルブケーシングの番号が合っているか確認します。

2 マウスピースの取り付け

マウスピースを軽く差し込みます。絶対に強く押し込まないでください。抜けなくなることがあります。



※マウスピースを落としたりぶつけたり、乱暴に扱わないでください。また、マウスピースを装着し、ポンポンと叩き音を出す行為はマウスピースが抜けなくなる原因となる為おやめください。

3 楽器の構え方

左手でバルブケーシングを持ち、右手でピストンを押さえます。
手の大きさ、指の長さには個人差がありますので、一番安定する持ち方にします。

トランペット



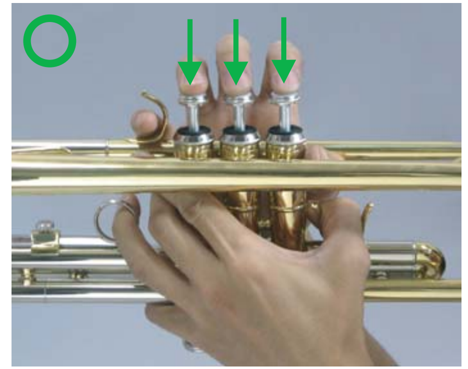
ポケットトランペット

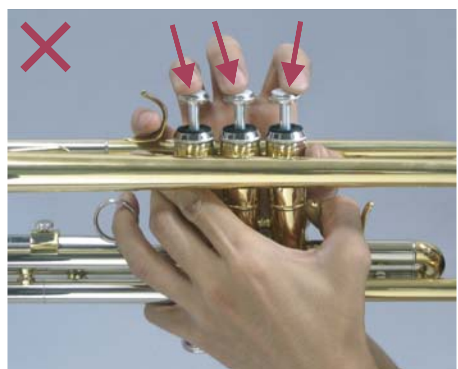




4 ピストンの押さえ方

ピストンを斜め方向に押さえると、構造上、偏摩耗し動作不良の原因となります。
ピストンは真上からまっすぐ押さえてください。


正しい押さえ方


間違った押さえ方



正しい押さえ方


間違った押さえ方


間違った押さえ方

演奏前の準備

5 楽器の置き方

不安定な場所に楽器を置くと、楽器が落下する恐れがあります。
安定した机、椅子などに置くようにしてください。

トランペット
※第2抜差管が上に来るように置きます。



ポケットトランペッ




6 チューニング

チューニングは主管抜差管をスライドさせて行います。
チューニングは気温の影響を受けやすいので、事前に息を吹き込み、楽器を温めてから行ってください。

トランペット


ポケットトランペット





演奏後のお手入れ

演奏後は必ず管内の水分を取り除いてください。

1 抜差管のお手入れ

1 抜差管と同じ番号のピストンを押しながら、まっすぐゆっくりと抜差管を抜きます。
第３抜差管は、ストッパーネジを緩めてから抜いてください 。



第1抜差管の場合



第2抜差管の場合



第3抜差管の場合



ピストンを押さずに抜差管を抜き差しすると、
管内の気圧が変化し、動かしにくかったり管内を痛めたりする恐れがあります。

2 抜いた抜差管から水分を出します。





ポケットトランペットは
ウォーターキィからも
水分を抜いてください。

3 抜いた抜差管を元に戻します。
抜差管を戻す際は、抜く時と同じように、抜差管と同じ番号の
ピストンを押しながらゆっくり入れてください。

ときどきのお手入れ

抜差管表面もピストンと同様に汚れがたまると動きが悪くなり、固着の原因となります。
定期的にスライドグリスを塗ってください。
目安として、毎日吹く場合は１週間に１回程度、間が空く場合はその都度行ってください。

1 各抜差管の古いグリスを拭き取り、新しくスライドグリスを塗ります。



2 スライドグリスがまんべんなく行き渡るよう、２〜３回スライドさせます。



3 はみ出たグリスはガーゼなどで拭き取ります。

2 ピストンとバルブケーシングのお手入れ

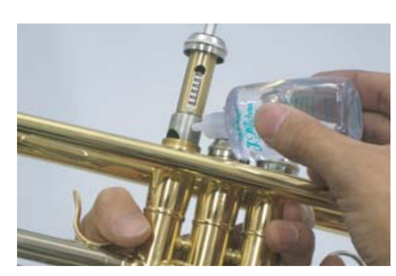
注意！

ピストンはトランペットの心臓部ともいえる重要な部品です。ピストンを落としたりぶつけたり、乱暴に扱わないよう十分にご注意ください。万が一ピストンが傷ついたり変形した場合は、決してバルブケーシングに入れず、そのままの状態でお買い上げ店にご相談ください。

1 笠ネジを緩め、ピストンをまっすぐ途中まで抜きます。

2 ピストンにバルブオイルを２～３滴注油します。
※長期間演奏しない場合は、多めにオイルを注油してください。錆付きの予防になります。





※ゴミが入らないようにご注意ください。

3 ピストンをまっすぐ、ゆっくりとバルブケーシングに収めます。
このとき、ピストンに刻印されている番号がマウスピース側に来るように向きを合わせます。
ピストンを左右に回し、バルブガイドをケーシング内の溝にはめます。
笠ネジをしっかりと締めた後、２～３回ピストンを上下させ、バルブオイルをなじませます。





ときどきのお手入れ

ピストンはトランペットの心臓部ともいわれ、ミクロンレベルの隙間をピストンが上下運動するという、非常に繊細な部分です。動きが悪くなったと感じたら、ピストン・バルブケーシングの清掃を行い、バルブオイルを注油し直してください。

1 笠ネジを緩め、ピストンをゆっくりケーシングから抜き取ります。抜き取ったピストンはガーゼなどを敷いた安定した場所に置いてください。底ネジも外します。





2 クリーニングロッドが露出しないようにガーゼを巻きつけます。





3 ガーゼを巻きつけたクリーニングロッドでバルブケーシングの内側の水分、汚れを拭き取ります。
汚れを拭き取った後、ケーシング内にガーゼの糸くずが残っていないか確認してください。



4 ピストンの汚れを拭き取ります。



5 ピストンにバルブオイルを注油し、よくなじませます。

6 底ネジを元に戻します。

3 楽器表面のお手入れ

クリーニングクロスで管体表面の汚れを拭き取りましょう。

1 保管場所

・ケースに収めた状態で保管しましょう。
・車の中など、高温になりやすい場所や、湿度が極端に高い場所では保管しないでください。
・ケースを倒したり、ぶつけるなどの強い衝撃が加わると、中の楽器が壊れる場合があります。




2 楽器の洗浄

楽器の内部に砂埃などの異物が混入したり、管内の汚れがひどい場合には楽器を水洗いしましょう。

1 お風呂や水槽などにぬるま湯（30℃～40℃）を張り、中性洗剤（台所用など）を数滴たらします。

2 楽器からピストンを抜き、底ネジも取り外します。
ピストンからピストン軸を外し、バネとバルブガイドを取り外します。

3 抜差管を抜き、ウォーターキイも取り外します。

4 水溶液を含ませたフレキシブルクリーナーで管内、抜差管、ピストンを洗います。

5 洗い終わったら、きれいな水で水溶液を十分に洗い流してください。

6 楽器の表面はきれいな布で水分をよく拭き取り、管内も十分に乾燥させてください。

7 ピストン、抜差管などを元に戻します。ピストンの注油、抜差管のグリスアップを必ず行ってください。



楽器が壊れちゃったかも？！
こんなときはどうしたらいいの？！
あなたの疑問、マイケルくんが解決します☆

音がおかしくなった、息が通らなくなった

ピストンの向きと番号は正しいですか？	ピストンには1.2.3番があり、それぞれに異なる息のとおり道(穴)があいています。それぞれが、正しいケーシングに正しい向きにおさまっていないとうまく息が通らず、正しい音が出なくなります。笠ネジをゆるめ、ピストンをゆっくり取り出し、確認してみましょう。
管内に異物が混入していませんか？	食べ物のカスや消しゴムなどが管内に入り込んでしまっている場合があります。直径１ｃmほどしかないトランペットの管に異物が入ると、息の通り道が狭くなってしまい、正しい音が出なくなります。ピストンを押さえない状態、それぞれピストンを１つだけ押さえた状態で、マウスピース側から思い切り息を吹き込んでみましょう。異物が見つかってもうまく取り出せない場合は、無理に取り出そうとしないで修理に出しましょう。 また、汚れが多量にたまっている場合は、水洗いしてみましょう。
ピストンフェルトなどのパーツが消耗していませんか？	ピストンとケーシングの息のとおり道(穴)をぴったり合わせるために、ピストンフェルトや笠フェルト、バルブガイドなどのパーツを使用しています。これら消耗パーツが劣化してしまうと、穴位置がずれ、うまく息が通らず、正しい音が出なくなります。この場合はパーツ交換をしましょう。
息漏れをしていませんか？	マウスピースから息を吹き込み、ベルから息が出るまでの間で息漏れが起きると、正しい音が出なくなります。この場合はコルク交換などの修理に出しましょう。 ウォーターキイ付近からの息漏れ → 抜差管のウォーターキイコルクが欠けたり、劣化したり、またウォーターキイが変形してしまったりすると、コルクと管の間に隙間ができて、息漏れが起きます。 管の継ぎ目からの息漏れ → マウスピースがひどくがたつく場合、管体のへこみなどが原因で管の継ぎ目に隙間ができてしまった場合などに息漏れが起きます。
ハンダが外れていませんか？	ハンダが外れていると、それが息漏れの起きない箇所でも共振による異音の原因になります。この場合は修理に出しましょう。

ピストンの動きが悪くなった

ピストンは真上からまっすぐ押さえていますか？	ピストンは、真上からまっすぐ押さえ、放すことによって一番ストレスなく上下運動をします。
バルブオイルは正しく補填していますか？	ピストンには潤滑油として「バルブオイル」を使用します。演奏の前後、また演奏の合間に正しくバルブオイルを注しましょう。 ピストン内部のオイルがすぐに黒く汚れてしまう　→　ピストン内部の黒いカスは金属と金属の磨耗カスが発生している可能性があります。新品のうちしばらくはオイルを多めに流したり、ガーゼなどでよく拭き取ってから新しいオイルを注し直してみましょう。次第に馴染んで、磨耗カスは出なくなります。 バルブオイルを注したのですが良くなりません　→　基本的にはバルブオイルを注し足してよく馴染ませることで解消しますが、管内の汚れやホコリが入り込んだ可能性もあります。一度ピストンを抜き出し、ケーシング内とピストンをガーゼなどでよく拭き取ってから、新しいオイルを注し直してみましょう。
ケーシング内やピストンに傷がついていませんか？	屋外で演奏した場合など、砂ぼこりが入ってピストンやケーシング内部を傷つけてしまうことがあります。無理に動かそうとしないで、まずは汚れを水洗いしましょう。新しいオイルを注しても引っ掛かりがあるなど改善しない場合は、修理に出しましょう。
楽器本体や取り出したピストンなど、ぶつけたりしませんでしたか？	ピストンが入った状態でケーシング表面をぶつけてへこみができてしまうと、その状態からピストンが動かなくなることがあります。また、ケーシング部分にへこみがなくても、抜差管やベルなどに力がかかってしまうと、管がゆがんでしまうだけでなく、抜差管の付け根がケーシングにめり込んでしまってピストンが動かなくなることもあります。ピストンに少し力を加えても動かない場合は、無理に動かそうとしないで修理に出しましょう。 ピストンを取り出したときに、ピストンをぶつけたり落としたりしてへこみができてしまうと、ケーシングにおさまらなくなることがあります。また、ピストンを抜きかけの状態で力を加えてしまってピストンが湾曲してしまっても同じです。ピストンをケーシングに戻すときにうまくおさまらなかったり、動きが鈍くなってしまった場合は、無理に動かそうとしないで修理に出しましょう。
長い期間お手入れせず放置していませんでしたか？	ピストン内部に水分や古いオイルが残ったまま長い期間放置すると、オイルが蒸発して汚れカスだけ残ったり、錆び付いてしまったりして動作不良がおこります。新しいオイルを注しても改善しない場合は一度メンテナンスに出しましょう。 ピストンの汚れがきれいになりません　→　通常の汚れ程度でしたら水洗い、中性洗剤での洗浄で十分です。見た目の変色があっても、ピストンの動きがスムーズなら問題はないでしょう。ひどく錆びが出ている場合などはピストンの動きに影響します、

ピストンを押すとカチャカチャと異音がする

ネジが緩んでいませんか？	ケーシングの笠ネジ、底ネジ、ピストン軸のネジ、第3抜差管のストッパーネジなどが緩んでいる場合は、しっかりと締め直しましょう。
ピストンフェルトなどのパーツが消耗していませんか？	ピストンフェルトなどのパーツが消耗していると異音の原因になるだけではなく、音抜けなどにも影響します。この場合はパーツ交換をしましょう。

笠ネジ、底ネジがうまく締まらなくなった

ネジの部分が変形していませんか？	反対方向に少し回し戻して、引っかかったところで正しい方向に回し直してみましょう。また、ごく少量のグリスをつけるとスムーズになります。それでもうまく締まらない場合は変形がひどい可能性があります、無理に締めないで修理に出しましょう。 ネジが動かなくなった　→　長期間お手入れをしなかった場合など、錆び付いて動かなくなることがあります。手で回せなくなってしまったら、無理に回さないで修理に出しましょう。

マウスピースが抜けなくなった

マウスピースを楽器につけたまま、落としたりぶつけたりしませんでしたか？	無理に引き抜こうとすると、思わぬところに力がかかり、故障の原因になります。手で少し回しながら引っ張ってみましょう。それでも抜けないようでしたら、無理に抜こうとしないで修理に出しましょう。

トランペットのよくある質問

抜差管が抜けなくなった、固くなった

抜差管はまっすぐ抜いていますか？	抜差管は２本の管が平行になっています、両方の管に同じ力がかかるようにゆっくり抜きましょう。また、管の方向に沿ってまっすぐ抜くように気をつけましょう。特に１番や2番の管は短くて抜きにくいので注意が必要です。
長い期間お手入れせず放置していませんでしたか？	抜差管に水分や古いグリスが残ったまま長い期間放置すると、グリスが硬化してしまったり、錆び付いてしまったりして動作不良がおこります。ガーゼなどで汚れをよく拭き取り、新しいグリスを塗りなおしましょう。それでも改善しない場合は一度メンテナンスに出しましょう。 錆び付いている　→　錆び付いた抜差管を無理に抜こうとすると、思わぬところに力がかかり、故障の原因になります。無理に抜こうとしないで修理に出しましょう。
抜差管に傷がついていませんか？	屋外で演奏した場合など、砂ぼこりが入って抜差管の内側を傷つけてしまうことがあります。無理に動かそうとしないで、まずは汚れを拭き取りましょう。新しいグリスを注しても引っ掛かりがあるなど改善しない場合は、修理に出しましょう。
抜差管やその周辺など、ぶつけたりしませんでしたか？	抜差管が入った状態で表面をぶつけてへこみができてしまうと、その状態から抜差管が動かなくなることがあります。また、抜差管部分にへこみがなくても、ベルや周辺部分に力がかかってしまうと、抜差管の平行がゆがむなど、抜差管が動かなくなる原因になります。無理に抜こうとしないで修理に出しましょう。

ウォーターキイから唾が漏れるようになった

コルクは消耗していませんか？	抜差管のウォーターキイコルクが欠けたり、劣化したり、またウォーターキイが変形してしまったりすると、コルクと管の間に隙間ができます。唾が漏れるだけではなく、息漏れも起きて正しい音が出なくなります。この場合は修理に出しましょう。

銀メッキが黒く変色してきた

市販のシルバークロスやポリッシュを使用して変色を取り除くことができます。研磨剤が含まれているものを頻繁に使用するとメッキが薄くなり剥がれてしまうこともあります。通常の汚れは研磨剤が含まれないクロスで拭き取るようにしましょう。

楽譜に書いてある音と実際に出ている音が違う

管楽器には移調楽器が多く、トランペットもそのひとつです。「調子＝B♭」と記してある通常のトランペットやポケットトランペットは「B♭管（ベー管）」と呼ばれ、記譜の「ド」（運指表どおり）を吹くと、実音では「シ♭（B♭）」の音が出ます。通常、トランペット用に書かれた楽譜（B♭調）を演奏するときに困ることはありませんが、その楽譜の音をピアノなどで確認するときや、ピアノや歌の楽譜（C調）を使って吹くときには注意が必要です。

ポケットトランペットの持ち方が分かりません

ポケットトランペットは管が入り組んでいるので、手の大きいかたはトランペットのようにケーシング付近に指がうまくおさまらないかもしれません。持ち方に関して特に決まりはないので、吹きやすい持ち方を見つけてみましょう。

マウスピースに‘大きさ’はあるのでしょうか

付属のマウスピースは標準的な大きさに設定してありますが、市販品には多くの種類があり、カップの深さや厚さなど、また吹き心地や音色もさまざまです。楽器に慣れてきたらいろいろと吹き比べ、ご自分に合うものを探してみましょう。

修理に出したいのですがどうすればよいですか？

修理依頼の際はご購入いただいた販売店へお持ちください。（通信販売等でご購入された場合も、販売店へご連絡ください。）
また、ホームページのフォームからもお問い合わせいただけます。
保証期間の内外にかかわらず、保証書に所定事項（ご購入日、お名前、ご住所、販売店欄など）をご記入の上添付してください。
また、故障内容の詳細を明記し、お手入れ用品などの周辺小物は取り出しておいてください。有償修理となる場合は、楽器をお預かりの上で見積もりをご案内させていただきます。